

久米田池

(くめだいけ)



全景



鳥の国際空港



「行基参り」

灯籠流し

ため池の概要

ため池の所在地

大阪府岸和田市

ため池の特徴

久米田池は、僧行基さんが神亀2年(725年)から天平10年(738年)まで14年の歳月をかけて造られた池です(行基年譜)。

池は、年間100種類以上の野鳥が訪れる「鳥の国際空港」として市民に親しまれており、絶滅危惧種のカワチブナ(河内鮒)の養殖も行われています。

昔、池の北西八木郷一帯は水量の少ない天の川に頼っており、干ばつに悩む農民を見て、僧行基と橘諸兄が農民を集めて最初の久米田池を築造し、その後、周辺の小さな数個の池を集めて、現在の大きな久米田池にしたと伝えられています。

池畔には、行基開創の名刹久米田寺があり、境内は大阪府指定文化財となっています。堤には桜の大木が植えられ、春には空も桃色にかすむほど花が咲き誇り、お盆には久米田寺の信徒による灯籠流しが行われます。

関連情報